

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

2014 せいきょう秋の強化月間 「せいきょうのお米紹介」

ごはん

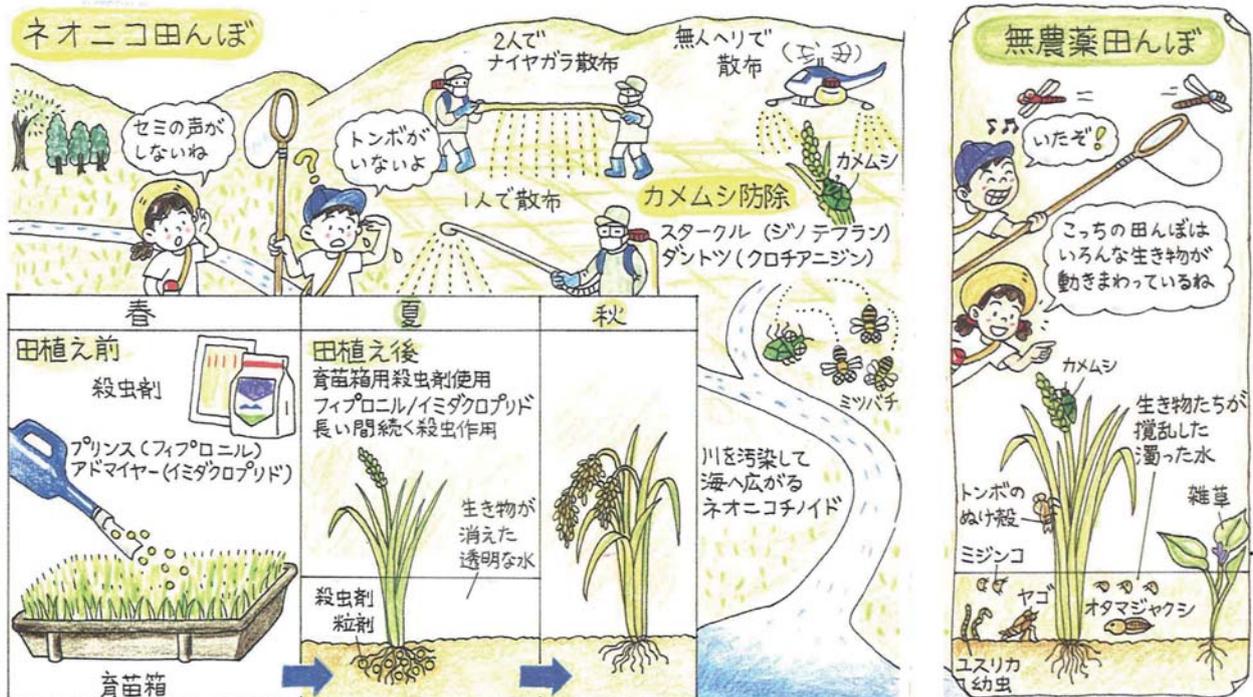
家族が毎日
食べるものだから
やっぱり

安全なお米を!



お米を食害する虫を殺す殺虫剤。かつての有機リン系殺虫剤から新しいネオニコチノイド系農薬が開発され急速に使用が広がっています。このネオニコチノイド系農薬は昆虫の神経伝達を阻害するもので、植物に浸透してその汁や葉を食べた昆虫が神経伝達を阻害されて死に至ります。

「脳-中枢神経-末梢神経」という神経系は昆虫とヒトに共通の構造のため、子どもたちに自閉症や学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)が増加しているのは、この新しい化学合成農薬の急激な使用増加によるものではないかと疑われています。



水野玲子さん編著、ダイオキシン環境ホルモン対策国民会議『知らずに食べていませんか？ネオニコチノイド』より イラスト：安富佐織

【生協のお米】家族が毎日食べるお米だから、やっぱり安全でお

一般慣行栽培の農薬成分数の半分以下が「特別栽培米」です。買い支えることを通して生産者に更なる努力を

【農薬使用の推移と毒性】EUでは2007年有機リン系農薬が禁止されましたが、日本ではいまだに大量に使われています。有機リン系農薬が子どもの尿から検出されるとADHD（注意欠如多動性障害）を発症する確率が2倍に上がるという研究報告がアメリカで発表されています。

1990年代から有機リン系農薬にかわって「ネオニコチノイド」系農薬が登場し様々な農作物に使用されています。ネオニコチノイド系農薬は浸透性・残効性・神経毒性が特徴です。

水溶性のため植物の葉や茎から直接吸収されたり、土壌に撒かれると根から吸収して植物の身体全体に行き渡り、葉からし

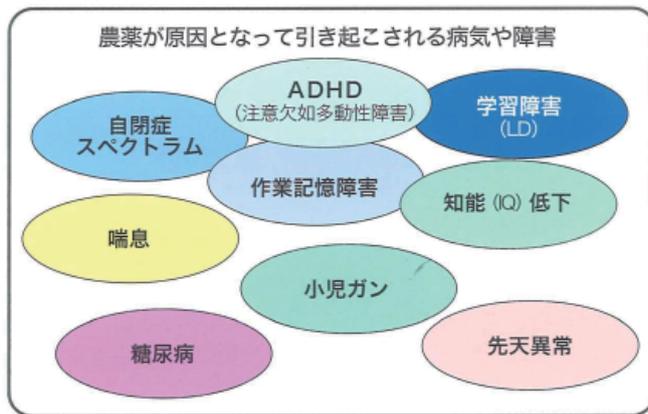
茨城県・千葉県の一 般慣行栽培 コシヒカリ		黒澤さんの ひとめぼれ	めぐみちゃんコシヒカリ 東町特裁米耕作者組 合・JA常総ひかり	
	生産者			
	包材		 商品カタログ 15ページ。 新米に切り替 わっています	
所在地		宮城県遠田郡涌谷町	茨城県常総市	
生産者の人数		黒澤さん一家	東町耕作者組合 11人	
コシヒカリ	品種	ひとめぼれ	コシヒカリ	
種子消毒 (4)	防除の内 容と 農薬成分 数 () 内	種子消毒	使用なし	
育苗 (0~2)		育苗殺菌殺虫	使用なし	
本田除草 (3~4) 空中散布		除草剤	使用なし	初期除草剤1回 (2)
個別防除 (6)		その他	使用なし	使用なし
17	農薬成分合計	0	2	
<p>●苗の育苗箱に</p> <p>2000年頃から稲の育苗箱用の殺虫剤としてネオニコチノイド系のイミダプロプリドや、フィプロニル粒剤の使用が増えていきました。これを使用した田んぼは水が澄みきり、生き物の気配が感じられない田んぼになります。この地域の田んぼのトンボもすっかりなくなりました。</p> <p>●カメムシ防除に</p> <p>斑点米をなくして等級の高いお米を増やすために、カメムシを殺すネオニコチノイド系農薬（スタークル）が撒かれています。</p>	育て方の特徴	肥料は微生物を有効に利用した自家製堆肥を主に農薬や、化学肥料に頼らない有機質肥料だけの栽培。	丁寧な水管理と、除草作業。長年の経験をいかした栽培管理で農薬成分数も減らす事に成功。	
	田んぼの環境	農薬を使わないので毎年カブトエビ（別名：くさとりむし）が大発生！地元のテレビ局も毎年駆けつけてきます。	茨城県南西部を流れる小貝川の福岡堰上流に広がる肥沃な沖積土。美味しいお米が安定的に収穫できます。	
	ここがちがう	親子3世代にわたっての無農薬・無化学肥料栽培。自家製完熟堆肥を使用。毎年カブトエビが発生するなど生物層の豊かな田んぼです。作付面積は50ha。	小貝川の肥沃な恵まれた土壌と土作りで、毎年高い食味値をマーク。常総生協と地産地消20年のおつきあい。	

【生協のお米「お試しキャンペーン」中！】 ●黒澤さんの「ひとめぼれ」白米 450g 注文番号 500255 お

おいしいお米を選んでくださいね!

してもらい安心の米づくりと環境を守っていきましょう!

み出る露を飲んだり、密や花粉を食べた昆虫が死んでゆきます。この浸透性・残効性のために農薬回数を減らせられると使用が増えていきます。しかし神経毒性(右図上)が疑われることからEUでは昨年2013年4月ネオニコ系農薬3成分の暫定使用中止を決定しました。日本は逆行して規制緩和されています。



おきたま興農舎		荒井さん	鯉淵学園	JAやさと稲作部会
山形県東置賜郡高島町		千葉県印西市	茨城県水戸市	茨城県石岡市山崎
80人		荒井さん一家	鯉淵学園水稲専攻学生	53人
コシヒカリ	ひとめぼれ	コシヒカリ	コシヒカリ	コシヒカリ
使用なし		種子消毒1回 (1)	処理済種子JA購入 (1)	種子消毒剤 (2)
使用なし	使用なし	使用なし	使用なし	使用なし
使用なし	初期除草剤1回 (3)	初期除草剤1回 (1)	初中期除草剤1回 (1) 中期除草剤1回(ヒエ対策) (1)	除草剤 (2)
使用なし		殺虫・殺菌剤1回 (2)	イモチ病対策1回 (2)	殺虫・殺菌剤 (3)
0	3	4	6	7
肥料等は共通の資材を使用しコスト削減化。除草は「カブトエビ」「マコモ」「米ぬか」「紙マルチ」「人力」等、薬に頼らない米作り。		苗作りから購入せずに、自前で苗を仕立てています。地域での空中散布があり、課題となっています。	学生の学びの場からの産物。講師の指導の下、稲作の基本栽培管理を勉強している。	化学肥料、農薬の使用を慣行栽培の半分以下とした特別栽培米。
置賜地方の昼暑く夜涼しい盆地 特産の気候で美味しいお米が出来ます。隣接する作物には木酢液で虫寄せない様に工夫しています。		白鳥の飛来地としても有名なところです (10月末~3月上旬)。	学校の敷地内にある。学生寮の近くにあり、常に人の目に触れる。有機栽培田の水路には「めだか」が増えている。	旧八郷町は、山地も平地も混在する地域。生物層が豊かな地域でもあります。
水資源(サンラテール)を使い、米に団粒構造を持たせ、保肥力ある土作り、おいしいお米作りを実践しています。包材には「バイタルフィルム」を使用し、保存状態の向上にも気を配ります。		鉬物資源(サンラテール)を大量に投入し、保肥力の向上と土壌ミネラルバランスを整えています。一味違うこしひかりです。もち米(ひめのもち)100%の「荒井さんののしもち」は絶品。	肥料には学内の畜産場が出た牛糞と、近隣の畜産農家から分けてもらっている牛糞を堆肥かして施肥しています。学生が丹精こめて作っています。	JAやさと管内で飼育される採卵鶏の糞を堆肥として利用。精米した時の米ぬかもボカシ・餌としても使うことで地域内で循環型農業を実現し、低コスト化にも成功。

お試し価格税込 300 円。●めぐみちゃんコシヒカリ白米 450g 注文番号 500254 お試し価格税込 216 円

9/1 第 35 回「脱原発と暮らし見直し委員会」報告

力を合わせて子どもたちの健康を守りましょう！一人ひとりができることを！



9/1、第 35 回になる脱原発と暮らし見直し委員会は、本部が仮移転中のためメンバーの小張さんが福島の子どものための保養のために古民家を買上げた「ともいきの郷」をお借りして開催しました。理事会からは大石副理事長が出席し、17 名の委員が集まりました。映画監督岩崎充利さんも生協と私たちの活動の取材に來られました。

● 7・8 月の参加・活動報告

7/2 (水)「A2-B-C」上映会とイアン・トーマス・アッシュ監督のトーク (つくば)

7/12 (土) Jeffrey Jousan (ジェフリー・ジョーサン) 上映会&トークライブ (つくば)

熱いアメリカ人監督お二人のお話を聞きました。

被ばくの健康影響がないとする議長の解任請求

8/5 環境省で開催された第 10 回「東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う住民の健康管理のあり方に関する専門家会議」を放射能から子どもを守ろう関東ネットの仲間と傍聴に出向き、健康被害をなかったことにしようとする座長(長瀧氏)の「解任要求」を市民から出しました。さらに傍聴制限も撤回させました。

● これからの予定

9/11 (木) 東海第二原発差止訴訟第 7 回口頭弁論 (水戸)

9/14 (日) 後藤政志講演会 (つくば)

9/23 (火・祝) さよなら原発全国大集会 (東京)

9/28 (日) JCO 臨界事故 15 周年集会 (東海)

10/1 (水) 次回委員会 (場所未定)

10/5 (日) 西尾正道先生講演会と基金 1 年間の活動報告 (つくば)

● 今回の討議

○ 脱原発の議員を市民の中から！

東海第 2 原発を廃炉にするために茨城県議会に市民の中から脱原発派市民議員を出してゆこうという全県的な市民運動が提起されています。

東海村選挙区からは甲状腺検診を共にすすめている荻三枝子さん、そして土浦選挙区からは脱原発いばらきネットワークの元代表であり、また私たちの組合員の仲間、脱原発委員会のメンバーでもある小張佐恵子さんが立候補してくれることになった報告があり、みんなで応援・お手伝いしよう確認しました。(なお、取手選挙区では現職の細谷さんが脱原発で活発な県議会活動をされています)。

土浦・取手の組合員のみなさんよろしくお願いします。また、土浦や取手、東海村に知人・友人がいらっしゃいましたらぜひご紹介応援お願いします。

○ 福島第一原発事故後の食品や土壌の各市町村での汚染データの収集・整理作業中！

委員会ではこの 3 年間の食品や土壌の各市町村自治体によるセシウム測定結果のデータ収集と整理をすすめています。

・常総生協活動エリア 19 市町のデータ収集を考えています。自治体によって検査対応が異なっているので、その実態を皆さんにお知らせしながら食や生活上の注意を喚起します。

・自治体単位のデータ収集メンバーを引き続き募集しています。

